

11th World Congress on DOHaDに参加して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久保, 佳範 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003974

第 10 回日本 DOHaD 学会

<トラベルアワード報告>

11th World Congress on DOHaD に参加して

女子栄養大学大学院

久保 佳範

第 8 回日本 DOHaD 学会 学術集会でトラベルアワードを頂き誠にありがとうございました。評価していただいた先生方、お世話になった先生方には、心より感謝しています。また、国際 DOHaD 学会に参加し、様々な発表の機会を頂き、大変刺激的で貴重な体験をさせていただいたことに重ねて御礼申し上げます。

私は、2019 年 9 月に行われました 11th World Congress on DOHaD (第 11 回国際 DOHaD 学会、メルボルン、オーストラリア)に参加した際、ポスター発表、DOHaD-Japan workshop for young investigators (シンポジウム)での口頭発表、Monash 大学ラボ見学ツアーにおいてミニシンポジウムでの発表をさせていただいたので、本演題では、私が国際 DOHaD 学会で得た気づきや学びについて報告します。

DOHaD 国際学会では、世界中の基礎研究、臨床研究、公衆衛生学、疫学などを研究されている 1000 人を超える研究者が一堂に会し、妊娠女性や胎児、父親、乳幼児から青年期を含め生涯にわたる健康課題について議論がされていた。Trainees 向けのセッションも多く用意されていて、若手研究者が発表する機会が多いことも印象的であった。当初はポスター発表のみの予定であったが、日本の若手中心のシンポジウムにて口頭発表の機会を頂き、英語での発表およびディスカッションは良い経験となった。DOHaD ASTRO が主催した Monash 大学ラボ見学ツアーでは、腎機能について研究されている Kate Denton 先生が私達の研究室の訪問を歓迎してくださり、大学院生を含めたミニシンポジウムでの討論やランチを通して交流を行った。研究室を訪問するという体験は非常に新鮮であり、次回国際学会ではさらに積極的に今回のような企画を計画したいと感じた。